

## 本年もよろしくお願ひいたします！！

今週、三学期が始まり、児童クラブも冬休みの保育から、通常日の保育へと移行しています。多くの児童が、元気いっぱいに登所してきており、子どもたちからは、家族と過ごした冬休みの話なども聞かれ、それなりに楽しい休みだったことがうかがわれます。



しかし、児童によっては、体調が万全でなかったり、通常日のリズムを取り戻せていない児童も見受けられます。児童クラブでも、それぞれの児童の様子を見守りながら、順調な新学期のスタートになるように支援していきますので、本年もどうかよろしくお願ひいたします。

## 「利用予定表」の提出が電子化されます

毎月、保護者の皆様に提出いただいている各月の「利用予定表」ですが、来年度からは**用紙の提出ではなく、利用予約システムの利用に切り替える計画**で準備を進めているところです。このシステムは、スマートホンなどの操作により、児童の出欠席などについての予約や変更ができるシステムです。

また、4月からの本格的実施に向けて、利用予約システム利用の試行も実施する予定です。詳細につきましては、別紙「利用予約システムについて（お知らせ）」をご覧ください、登録方法や操作手順をご理解いただければ幸いです。システムについての説明は、3月に実施予定の保護者説明会でも行う予定です。**まずは、1月25日までに、情報登録をお願ひいたします。**



なお、試行期となる2月～春休みの利用予定表については、今までどおり用紙の提出をお願ひすることとなりますのでよろしくお願ひいたします。

## 【連絡】

### 1. 「会員継続のための必要書類」の提出締め切りが、1月19日（金）になっています。

すでに提出していただいている方もいらっしゃると思いますが、必要書類（①家庭状況調査票②就労証明書③写真公開にともなう調査のお願い）の提出についてよろしくお願ひします。**就労証明書については、事情により後日の提出になってもかまいませんので、その場合は、ご連絡ください。**

### 2. 「保護者説明会」の開催について

明和児童クラブの「保護者説明会」ですが、感染予防対策を十分に行ったうえで、今年度も昨年度に引き続き**実施する予定です。**

今のところ、3月9日（土）の午後、実施する予定ですが、後日改めてご案内申し上げます。

### 3. 2月の利用予定表について

2月の利用予定表の提出しめきりは、**1月25日（水）**となっておりますので、よろしくお願ひします。

### 4. 避難訓練の予定について

2月2日（金）に今年度4回目の避難訓練を予定しています。火災を想定した避難訓練で、消火訓練も実施する予定です。お迎えの時間と重なることがあるかも知れませんが、お急ぎの場合には遠慮せずに職員にお声がけください。

## 子育てのあれこれ No.23

「いじめをなくすための子育て」の最終回として、今回は、「いじめられない子やいじめに強い子にするための子育て」について、紹介させていただきます。

9号でも触れましたが、小学校のいじめで多いのが、それまで、自分の思い通りに友達を動かしてきた子が、高学年になり、「いじめられる側」になるといったパターンです。これは、子どもの論理的思考力が、10歳を過ぎた頃から大人並みになるといった発達特性と関係があります。その頃になると、「相手の気持ちを無視したわがままな言動を許せない気持ち」が生まれるとともに、過去における理不尽な友達の言動も思い出され、そのような状態になった数人の子の不満が一致すると、「いじめ」といった反撃になってしまうのです。

それでは、このようなケースも含めて、いじめられない子やいじめに強い子に育てるにはどうしたらよいのでしょうか？

諸富祥彦氏は、**人間関係能力＝人間関係の耐性＋人間関係のスキル（技能）**のように人間関係能力を定義して、「**人間関係能力**」を高めることの大切さを主張しています。

### 「人間関係の耐性」を高めるには

人間関係に限らず、様々な場面で、「がまんする力」を培うことが大切です。特に、子どもの気持ちは受け入れながら、物質的・金銭的欲望には厳しく対応することが必要です。また、待つこと、順番やルールを守ること、人に合わせられることなどがその基本です。

### 「人間関係のスキル（技能）」を高めるには

人間関係のスキル（技能）の中でも特に大切なのが、「自己主張」を上手にできるようにすることで、相手の立場や反応に応じて、自分の思いや考えを表現できるようにすることが必要です。特に、相手の気持ちを考えた言動ができるようにすることがポイントです。

以上のようなこととも関係ありますが、子どもを養育する立場にある親や教師は、次のような危険性を頭に入れておく必要があると言われています。

#### ・親や教師が、子どものけんかにすぐ出てしまうと

→ 自己主張の仕方が分からず、人間関係耐性に乏しく、自分では問題解決ができない子になってしまう

#### ・親や教師が、指示・命令により有無を言わずに子どもを日常的に動かしていると

→ 自分で決めることができず、友達の言いなりになりやすく、自己主張ができない子になってしまう

#### ・親や教師が、自分の都合や感情による一貫性のない注意・叱責が多いと

→ 物事の善悪や自分の考えよりも、人の顔色を見ることに終始することから、対人関係に挟まれて、ストレスを溜め込む子になってしまう

#### ・親や教師が、自分本位で、批判的な言動が多いと

→ 自分勝手な行動や批判的な言動が多い子になってしまい、そのことから、孤立しやすい子になってしまう

### 最後にまとめとして－「自分自身を好きになれる子」を！

いじめられない子・いじめに強い子にするためにいちばん大切なのは、「**自分自身を好きになれる子**」に育てることであるということについては、多くの学者が共通して主張しているところです。言葉としては、「自己肯定感」「自己イメージ」「自己有能感」「自尊感情」「自己有用感」など様々な表現が用いられていますが、**それらを高めることが、いじめの未然防止に直結する**と言われています。また、自分自身を好きでいられる子は、少しぐらいのいじめには屈しないとも言われています。そのような子を育てるためには、大人たちが子どもの気持ちを受容しながら、**子どもが自分で判断して決定する機会を尊重**しなければなりません。「指示待ち」ではなく、失敗を繰り返しながらも自分で考えて判断し行動することが重要なのです。そして、その子の判断や決定が正しかった時に、タイミングよく肯定的な言葉掛けをしてもらえば、「自分のことを認めてもらえた」と子どもは感じます。そのような「認められた経験」の繰り返しが、自信や意欲にもつながっていき、自分自身を好きになれる子を育てることにつながるのだそうです。日常の様々な場面で、子どもへの言葉掛けを工夫するなどして、「**自分が必要とされている**」といった実感をもてるような機会を多くつくっていくことが大変重要なのだそうです。学校としても、家庭や地域と連携しながら、そのような機会をできるだけたくさん作りながら、「自分自身を好きになれる子」を育てられるように努力していきたいと切に思います。